

第3期ロジスティクス環境会議 第12回包装の適正化推進委員会 議事録

I. 日 時：2010年2月19日（金） 15：00～17：00

II. 場 所：東京・港区 社団法人日本ロジスティクスシステム協会 大会議室

III. 出席者：17名

IV. 内 容：

- 1) アウトプットについて
- 2) アウトプットのタイトルについて

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、増井委員長の司会のもと、以下のとおり議事が進められた。

VI. 報 告

1) これまでの経過と本日の検討事項について

事務局より、資料1に基づき、これまでの経過と本日の検討事項について説明がなされた。

VII. 議 事

1) アウトプットについて

事務局より、資料2、アウトプット（案）に基づき、第I、III、IV、V、VI章について説明がなされた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見】

（第I章について）

＜本書で対象とする包装について＞

委員長：JISで定められた包装の定義と本書で対象としている“包装”の説明が必要だと考える。

事務局：P1で、“輸送包装を対象”と記載している。

委 員：パレットやコンテナまで含めてしまうのは困難な印象を受ける。

委 員：個装は商品と一体と考えられることから、本書の対象にはならないと考える。

委 員：当社では、部品を包装するケースが多いが、包装材そのものや容積を減らすために部品自体の設計変更などを行っており、個装も対象に含めるべきと考える。

委員長：対象を分かりやすく記載いただきたい。

＜ 2) 当委員会における適正化とは＞

委員長：図表1-1では強度に焦点を当てているが、包装の役割は、強度のみならず、温度、湿度等から内容物を保護することである。それらも伝わるような表現の方がよいと考える。

副委員長：包装材の素材を選択する際には、強度だけではなく、温度、湿度等も総合的に鑑みる必要がある。

委 員：取扱の利便性の視点も重要である。

委員長：図表1-1の“外力”を“外力・環境条件”、“強度レベル”を“機能レベル”、“内容物の強度”を“内容物の特性”にそれぞれ変更してみてはどうか。また、これらの変更に対応させる形で、解説文も修正いただきたい。

＜ 3) 当委員会の目標＞

委員長：当委員会の目標に「包装単位ごとの使用量を減らす」とあるが、当初から議論してきたとおり、当委員会では、包装材の削減ではなく、適正化を目的に検討してきたことから、表現を修正すべきと考える。

委員：図表1-1で“環境負荷最少化”と記していることから、ここも“環境負荷を減らす”に変更した方がよいと考える。

(第Ⅲ章について)

<5. CO₂排出原単位について>

委員長：図表3-6で、どれが包装材を示しているのかわかりにくい。

事務局：四角が包装材、円柱が内容物を示している。

委員長：カーボンフットプリント算定のための原単位データベースの値は、一切使用してはいけないのか教えていただきたい。

事務局：自社内で管理・評価するために、CO₂値を算出する目的であれば、問題ないと思われる。

委員長：原単位は一切使用できないといった誤解を与える可能性が高いことから、(1)の2段落目にある注意書きは不要だと考える。

副委員長：「どのような目的であっても使用不可」であれば、ホームページに公開しないはずであるので、注意書きは不要だと考える。

事務局：本書を見て当該ホームページにアクセスした際に、この注意書きを目にすることになると想定されるので、削除することとしたい。

委員長：図表3-7で段ボールの原単位だけ網掛けをしている理由を教えていただきたい。

事務局：段ボールだけ面積あたりのCO₂排出量なので、それが分かるように網掛けをした。

委員長：数値そのものに差異があるような誤解を与える可能性があるため、例えば単位だけ網掛けする等、変更していただきたい。

委員：段ボール以外の3種類の素材の原単位の単位をそろえた方がよいのではないかと。

事務局：有効桁数のこともあるので、出典元の記載に準拠する形としたい。

<6. 3) 研究：ワンウェイとリターナブルの比較>

委員長：購入、輸送の各段階に“輸送”とあるが、それぞれ包装材輸送、商品輸送であることが分かるように記載すべきと考える。また、ここでは包装材での比較が目的であることから、商品輸送に係るCO₂排出量を全てカウントすることには疑問が残る。

事務局：商品輸送に係るCO₂排出量のうちの包装材に係る部分だけ取り出す必要がある。

事務局：段ボールとプラスチックの通い箱を比較すると、例えば、段ボールの方がより多く積載できる場合もある。その差異を示せるようにしておくことも必要ではないかと。

委員長：包装材に係る部分として算出すべきと考える。

委員：調達先からの輸送については、省エネ法で考えると、包装材メーカーの算定範囲に含まれると考える。

事務局：省エネ法で考えるとご指摘のとおりであるが、ワンウェイとリターナブルを単純に比較するという意味においては、省エネ法の算定範囲に係らず、これらも含めるべきと考える。

委員：廃棄・リサイクルの段階には、“スクラップ運搬”が必要だと考える。なお、Ⅳ章で議論したとおり、有価売却をした場合は、所有権も移転することから、算定は不要となる。

委員：リターナブルにおいても、購入、廃棄・リサイクルは1回限りである。しかしながら、図表3-12、3-13の記載だと、購入から廃棄・リサイクルまでの各段階を合算した値に使用回数をかけてしまう与える恐れがある。したがって、表の中で細かく記載するか、「1使用回数あたりの算出」ということが分かるようにする必要だと考える。

事務局：本日いただいた意見を踏まえて、表を整理してみたい。

<6. 2) 改善取り組みについて>

委員長：2)の計算結果には製品1台、あるいは部品1個あたりということをつかせるように記載した方がよいと考える。

(第Ⅳ章について)

委員長：P28の(3)で、“バージン製品(P)にかかるCO₂排出量の算出も必要となり、現状で

は、排出事業者側での算出は困難”とあるが、そもそも排出事業者側で算出する必要があるのか教えていただきたい。製品に表示されたカーボンフットプリントの値を用いればよいのではないか。

事務局：(3)はCO₂排出量の総量を求めるのではなく、リサイクルすることによるCO₂排出削減量を算出することをねらいとしている。具体的には、P30の(4)にあるように“削減係数”を行政や業界団体等で設定いただき、それを排出事業者が活用するというイメージで考えている。

委員長：(3)は削減量についての記述であることが伝わるように、表現を修正いただきたい。

委員長：P31の(3)の“おおくくり”は“大分類”の方が適当だと考える。

(第V章について)

委員長：この表はどのような情報を元に整理したか教えていただきたい。

事務局：委員の方より情報提供いただいたものである。

委員：リターナブルの回収率を高めるためには、使用時の取り組みが重要だと考える。“使用時”の欄を別途設定してはどうか。

事務局：ご指摘いただいた形で欄を設定したい。回収や返送のしやすさなどもその欄に含まれると考える。

委員長：ワンウェイの投入量の欄に、“廃棄時に環境負荷の少ない素材の選択”も追加すべきと考える。

委員長：各項目に番号や記号を付与した方が分かりやすい。

副委員長：記載された項目以外の取り組みもあり得るので、表頭を“取り組み項目例”にした方がよいのではないか。

委員長：項目の中に0W2rなどフローの番号が出てくるが、その都度フロー図を参照しなければならないので、可能な範囲でフローの名称も記載してはどうか。

(第VI章について)

委員長：1.で最後の文に“ブラッシュアップしていただく”、“図っていただきたい”とあるが、全て行政に任せる印象を与えてしまう。「我々も実施するので行政にもやっていただきたい」という意味合いを出すように文を修正いただきたい。

(その他)

委員長：このアウトプットをいつまでに完成させなければならないか教えていただきたい。

事務局：2月26日(金)に印刷会社に入稿する予定である。

委員長：この日より前であれば修正可能なので、何かお気づきの点があれば事務局まで申し出ていただきたい。

【決定事項】

- ・本日の意見を踏まえて、アウトプット(案)を修正する。
- ・修正した内容については、委員長、副委員長に確認いただき、最終版とする。

2) アウトプットのタイトルについて

事務局より、資料3に基づき、アウトプットのタイトル(案)について説明がなされた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見】

委員：「輸送包装に係る環境パフォーマンス算定の考え方及び改善の手引き」がよいと個人的に考える。

委員長：環境パフォーマンスだけを検討してきたわけではないので、案1系よりも、案2、3の方が適当だと個人的に考える。

委員：案2も案3と同じように“包装”を“輸送包装”とすべきと考える。

委員長：案3はタイトルとしては少し長いので案2にしてはどうか。

委員：タイトルに“グリーン物流”と記載されている方が、経営層の関心を引く可能性が高い。

委員長：案3をベースとして「輸送包装の適正化によるグリーン物流推進の手引き—環境パフォーマンス算定の考え方—」にしてはどうか。

副委員長：タイトルの前半と後半を入れ替えて「グリーン物流推進のための輸送包装適正化の手引き」としてはどうか。

【決定事項】

- ・アウトプットのタイトルを「グリーン物流推進のための輸送包装適正化の手引き—環境パフォーマンス算定の考え方—」とする。

3) 今後のスケジュールについて

事務局より、第3回本会議での本書の完成版の配布、並びに本会議後に委員向けに郵送する旨の説明がなされた。

VIII. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、増井委員長は閉会を宣した。

以 上